

(参考様式 4 - 2)

**農山漁村活性化プロジェクト支援交付金
新田地区活性化計画 目標達成状況報告書**

平成 30 年 9 月 11 日作成

都道府県名	計画主体名	地区名	計画期間	実施期間
宮城県	登米市	新田地区	平成 24 年度 ～平成 28 年度	平成 24 年度 ～平成 26 年度
事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体	
都市農山漁村総合 交流促進施設	都市農山漁村総合交流促進施設整備場 内整備工事一式 A=9,989 m ² 体験交流施設 160 m ² ×1 棟、生ハム体験 工房 160 m ² ×1 棟、場内整備一式、交流 体験施設（直売所等一体）254 m ²		農業生産法人(有)伊豆沼農産	
受入機能強化施設	地域連携販売力強化（販売促進：販売） 施設 1 棟 392 m ² 、機械器具等一式 地域連携販売力強化（処理加工）施設 76 m ² 、機械設備等一式 地域連携販売力強化（販売促進：食材提 供用）施設 1 棟 363 m ² 、機械設備等一式		農業生産法人(有)伊豆沼農産 登米市	

1 目標達成に向けた取組

平成 29 年度 実施方策	<p>交流人口の増加を図るため、テレビ及びラジオにおいて商品情報やイベント情報を発信した。フェイスブック及びメールマガジンなどは更新回数や掲載画像枚数を増やし、また新たにLINEを活用するなど、国内外に向けた情報発信の強化を図った。</p> <p>インバウンドの取組として、インターネットTVを活用し、シンガポールの番組において、新田地区から生中継で「(有)伊豆沼農産の商品」や「地域の観光資源」について紹介した。</p> <p>誘客に向けた新規イベントとして、「食農体験ソムリエ」育成プログラムや農泊・インバウンドセミナーなどを実施した。「食農体験ソムリエ」育成プログラムには、全国から大手企業の担当者等が約 20 人参加した。農泊・インバウンドセミナーには 100 人以上が参加し、そのうち 6 人の外国人が農泊プログラムにも参加した。また、農業体験や料理体験などの既存プログラムには約 5,000 人が参加した。</p> <p>地域産物の販売額の増加を図るため、業務用商品の開発に取り組み、「伊達の純粋赤豚ジャンボブランド」の脱骨ブロックを商品化し、都内の高級ホテルが通年アイテムとして取り扱うことになった。また、「伊達の純粋乳酸菌発酵生サラミ」の利用場面を増やすため、各業態の意見を踏まえた新規格の開発に取り組んだ。</p>
平成 29 年度の 目標値と実績値	<p>【交流人口の増加】 目標値：210,000 人 実績値：175,907 人 達成率 83.77%</p> <p>【地域産物の販売額の増加】 目標値：471,000 円 実績値：393,563 円 達成率 83.56%</p>

<p style="text-align: center;">所 見</p>	<p>交流人口の増加については、誘客に繋がるように情報発信の強化に努めたが、交流人口の実績値が目標値を下回った。平成 29 年度の登米市観光地点入込数調査では、市全体の入込数が前年度より増加しているが、新田地区への入込数は減少している。</p> <p>今後も誘客に繋がる情報を発信していくとともに、新田地区を訪れてみたくなるような新商品や新規イベントプログラムの開発に努める。</p> <p>更にリピーターを増やすためにも顧客満足度の向上に繋げるように接客・対応等の改善を図る。</p> <p>地域農産物の販売額の増加については、新たな卸先も増えているものの、物流費、原材料及び包材資材等の高騰により卸価格を値上げしたことで、既存卸先との取引が多数無くなったことが影響し、実績値が目標値を下回った。多くのホテルやレストラン、スーパーマーケット等との取引は価格条件が厳しく販売額がなかなか伸びない状況である。販売額を増加させるには直販率を上げる必要があり、その戦略の検討に取り組む。</p>
--	--

【記入要領】

- ※ 事後評価時に策定した改善計画を添付すること。
- ※ 目標達成予定年度まで毎年度作成し、毎年 9 月末日までに報告すること。
- ※ 達成率等算出根拠（参考様式 4 - 2 添付資料）を必ず添付すること。